



小堀専務（右）に種子を手渡す前田教授

清水森ナンバ豊作願う

弘前で生産者ら祈願祭

弘前在来トウガラシ「清水森ナンバ」の生産者や加工業者らで組織する「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」は17日、育苗を担う弘前市の小堀農園で豊作祈願祭を開き、今年産の順調な生育を願った。

清水森ナンバは、約40年前に初代弘前藩主・津軽為信が伝えたと言われる伝統野菜。甘みを含んだまろやかな辛味とうま味が特徴。2020年に地域の農林水産物や食品のブランドを守る農林水産省の地理的表示（GI）保護制度に登録されたほか、22年には清水森ナンバ一升漬」が文化庁の「100年フード」に認定された。現在、会員121人のうち70人が生産しており、希少価値の高い伝統野菜として需要が拡大している。

豊作祈願祭での神事の後

前田教授は「昨年は雨が多く心配されたが、病気も少なくいい出来だった。気がこれまでとは違ってきていることを意識して育ててほしい」とし、同研究会の中村元彦会長も「風味豊かなトウガラシを皆さんと一緒にこれからも作っていききたい」と意欲を示した。

（西尾瑛）

は、種を管理する弘前大学農学生命科学部の前田智雄教授が小堀農園の小堀将太郎専務に種子を手渡した。今年約1万1000本の苗の生産が予定されている。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。